

目次

まえがき

2

第一章 言語

12

宇宙とあなたは偶然に存在

12

言語発生研究

13

言語の効用

15

第二章 日本と日本語

17

日本の地理的位置

17

赤ん坊の脳の発達

18

漢字伝来

19

日本語と日本人

20

日本語の特徴

21

第三章 飛鳥奈良時代

27

六朝文化

27

仏教伝来

28

聖德太子（五七四―六二二）

29

白村江の敗戦と日本と天皇

29

遣唐使と金と唐の都・長安

31

長屋王（六七六―七二九）

32

鑑真（六八八―七六三）

33

正倉院

33

大仏建立

34

古事記

万葉集と言霊

漢字からひらがなへ

大仏建立

奈良七重七堂伽藍

紫式部（九七八―一〇二六）

清少納言（九六六頃―一〇二五頃）

保元・平治の乱（一一五六―一一五九）

平清盛（一一一八―一二八二）

平家物語

後白河院と『梁塵秘抄』

平泉の中尊寺金色堂

第四章 平安時代

52

平安遷都の理由

大祓詞、京都の寺

空海（七七四―八三五）

最澄（七六六―八二二）

源信（九四二―一〇一七）

紀貫之（八六六―九四五）

カタカナの発明

第五章 鎌倉室町時代

73

源頼朝（一二四七―一二九九）

『新古今和歌集』春名歌 一二〇五

慈円（一一五五―一二二五）

鴨長明（一二五五―一二二六）

後鳥羽院（一一八一―一二三九）

62 59 58 57 55 54 52 51 48 47 45 35

78 76 75 75 73 72 69 67 66 65 63 62

藤原定家（一二六二―一二四二）	79
北条政子（一二五七―一二二五）	81
鎌倉仏教	82
親鸞（一二七三―一二六二）	83
道元（一二〇〇―一二五三）	84
一遍（一二三九―一二八九）	85
ひらがなによる読者層の拡大	87
元寇（一二七四―八一）	89
兼好法師（一二八三―不詳）	91
太平記（一三一八―一三六八）の歴史	93
足利義満（一三五八―一四〇八）	93
世阿弥（一三六三? ―一四四三）	94
堺	95
鉄砲伝来一五四三年	96
世界史の展開	97

第六章 安土桃山時代

織田信長（一五三四―一五八二）	98
明智光秀（一五二八―一五八二）	101
ザビエル（一五〇六―一五五二）	101
ロドリゲス（一五六一―一六三三）	103
豊臣秀吉（一五三六―一五九八）	105
石田三成（一五六〇―一六〇〇）	109

第七章 英語

英語の歴史	110
世界の英語	111
日本人と英語	113
日本人に英語が難しい理由	114

必要な英語のレベル

日本の英語教育

おもてなし

119 117 115

第八章 日本語雑

121

日本人個人の努力でできた図書の紹介

十九世紀の外人の見た日本庶民と自然

日本語の悪態

日本語のユーモア

鳥啼歌

132 128 127 123 121

第九章 日本語を世界語に

133

外国人から見た日本語

日本語を護ろう

英語支配の縦の構造

日本語は世界語になれる

参考文献

143 140 138 137 133